東本願寺ロサンゼルス別院
編集責任者　輪番 伊東憲昭
み　ち
第75巻4号
2023年6月号

託されたもの

大谷大学名誉教授
池上哲司

押し入れの整理をしていると、思いもかけないものが次から次へと出てくる。小学校時代の文集、高校生のとき行った美術館のチケット、大学生のときの北海道旅行の写真、大学院時代の研究ノート、読もうと思ってコピーしたまま忘れてしまっていた論文の写しなどなど。これらすべてが自分に関わりがあったものなのだから、今日まで七十年以上生きてきたということにはどれだけ多くの人々や出来事との関わりが含まれていることだろうか。そんなことを考えながら、文集を開いたり、写真を眺めたり、ノートを読み返していると、遅遅として整理が進まない。

これらを残しておいても、写真はまだしもノートや論文のコピーは子どもたちには無意味なものでしかないだろう。そう考えて、段ボールから出てくるノートやコピーを切り刻んで廃棄していたが、すでに故人となった知人からの手紙が出てきて手が止まってしまった。

学生時代の自分の日記はなんの躊躇もなく廃棄できた。しかし、この手紙には決断が下せない。自分宛ての手紙なのだから、この手紙は私の所有物であることにまちがいない。にもかかわらず、この手紙には私の所有物であるということ以上のなにかが加わっている。それは知人と私との関係であり、手紙を廃棄することはその関係をも廃棄することである。だからこそ、この手紙を捨てることができないのである。

現在は私の所有となっているが、この手紙は本来故人の所有であった。故人がこの私に宛てて語りかけてくれた言葉、それが託されてここにあるのである。託された言葉にいかに応えるか、それこそが求められている。私の所有物であることを越えて、この手紙はそれを私に要求している。捨てられるわけがない。

（真宗大谷派真宗会館二〇二三年三月発行「サンガ」182号七頁より引用させていただきました）

日本ツアーレポート

人として生まれたことの意味とは何か―二〇二三年慶讃法要参拝及び御旧跡訪問

ジェイソン・ワン

「南無阿弥陀仏　人と生まれたことの意味をたずねていこう」これが今年京都のご本山でお勤めされた宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要のテーマでした。今回、北米開教区の各寺院から参加された皆さんと共に二週間日本に滞在し、ご本山へ参拝し、御旧跡を巡りました。その経験を通し、慶讃法要テーマが私達においてどのような意味を持つのか、少し見えてきたと思います。

行事予定

六月

四日　六月祥月法要
十一日　日曜礼拝・話し合い
十八日　父の日家族礼拝
二十五日　日曜礼拝　ルンビニ卒園式

七月

二日　独立記念日休み
九日　七月祥月法要
十六日　お盆家族礼拝・ペット追悼法要
二十三日　盂蘭盆会（別院）
二十九日　お盆祭り（於村田農場）
三十日　礼拝休み

八月

六日　八月祥月法要
十三日　礼拝休み
二十日　礼拝休み
二十七日　礼拝休み

四月十九日（水）

京都に到着してすぐに、シカゴ、バークレー、ウェストコヴィナ、ロサンゼルスの門徒約四十名はバスに乗り、最初の目的地に向かいました。約一時間後、比叡山の延暦寺に到着しました。

七八八年建立のこの天台寺院は旧跡巡りの最初の地として良いと思いました。日本仏教の数多くの開祖達を生み出した寺院だからです。法然上人も親鸞聖人も若き日に比叡山で学んだのです。

私達は今回三塔のうち二塔を訪れ、精進料理を昼食にいただきました。美味しい食事尽くめの旅行の最初の食事です。

長先生、永山先生が天台のお坊さんやお寺について

比叡山常行堂にて

のお話を聞かせて下さいました。同行した先生方の豊富な知識は驚くほどで、有り難いものでした。後に長谷川先生、見義先生も合流しました。それぞれの訪問先で先生方から学ぶことができたのは素晴らしい経験でした。

今回の旅行では初対面の方もおられましたが、パンデミック後ということもあり、それまでオンライン会議のみで知っていた方々と直接お会いすることができる、いわば再会の場でもありました。妻レスリーは長くパティ中井先生のオンライン教室を受講していますが、今回初めて先生と直接お会いすることができました。食事の席でも同席した皆さんとその日の出来事について語り合い、笑いも交えてお互いを知ることができました。時に少し騒ぎ過ぎてしまったかもしれません。

四月二十日（木）

ご本山参拝の前に皆で渉成園を訪ねました。渉成園から本山へ向かう細い参道沿いに仏具店や念珠店があり、職人による念珠作成作業を見学することができました。念珠の中にはその細工や材質により何千ドルもする高価なものもありました。伊東輪番は参道沿いにも本山の施設や職員の住宅があると説明してくれました。

やがて本山に到着し、境内に入ると御影堂の壮大な姿に圧倒されました。世界最大の木造建築の一つです。そこで北米の開教使となる予定で、慶讃法要で案内をしている長嶺先生にお会いしました。また、ハワイからの参加者を引率している岡田先生や宗務所で勤務している藤井先生にもお会いすることができました。

帰敬式を受式する参加者は式の準備のため集められ、残りの私達も御影堂に入り、その日の法要の終盤に参加しました。慶讃期間中、毎日勤まる法要に訪れる人々のバスが本山前に並び、両堂とも満堂でした。

開教区からは九名が帰敬式に参加し、開教司教の執行のもと、お剃刀を受けました。

帰敬式を終えて

帰敬式の後、後藤先生と彼の本拠地で会い、京都駅のラーメン屋で昼食を共にしました。彼がいなければ何を注文して良いかもわからなかったでしょう。

午後は本山へ戻り、真宗落語や親鸞聖人展などを観覧しました。落語では、ある人物が親鸞聖人の人柄や浄土真宗について学んでいく様子が面白おかしく、劇的に描かれていました。

四月二十一日（金）

午前十一時ごろ、慶讃法要に参拝するため再び本山に集合しました。そこですでに日本国内を旅行しておられた川平忠秀さんとローサさんご夫妻、イレイン・バーボッドさんとヘザーさん親娘と合流することができました。

法要は主に日本語で行われましたが、長谷川先生が無線のマイクとイヤフォンを通じて英語で説明して下さいました。阿弥陀堂での「阿弥陀経の」お勤めに続き、御影堂に参列する私達も正信偈を皆で唱和しました。お馴染みの正信偈をこのような壮大な環境でお勤めするのはとても楽しい経験でした。しかし、驚いたことはここからです。千人はいるかと思われるお坊さん達や参拝者達全員が念仏讃三淘をお勤めしたのですが、その早さ、声の力強さには心を打たれました。私はお勤めについてゆくこともようやくという感じでした。

法要後は、三海外開教区からの参加者全員が大谷暢裕門首と大谷裕開教司教を囲んでの昼食会に参加しました。両門様はそれぞれ歓迎の挨拶の言葉を下さり、また席を回って皆と写真を撮って下さいました。各開

（3ページに続く）

（2ページより続き）

昼食会にて

教区からお土産も提供されました。

その後、見義先生引率のもと、私達は京都国立博物館を訪れ、「親鸞聖人生誕八百五十年特別展」を観覧しました。本願寺派や大谷派ほか真宗各派の協力により希少価値のある掛軸や像、聖教の写本などが集められた特別な共同展示を楽しみました。

四月二十二日（土）

京都滞在の最終日、私達は親鸞聖人のお骨が収められた大谷祖廟を訪れました。祖廟には歴代の門首や各地のご門徒のお骨もまた一緒に収められていると説明されました。しかし、御廟の門から奥にはごく一部の職員以外誰も入ることが許されていないとのことです。

次に浄土宗の本山である知恩院に立ち寄り、崇泰院（元大谷）を訪れました。崇泰院は大谷廟堂の跡地であり、蓮如上人生誕の地でもあるそうです。［浄土宗の］お坊さんが崇泰院の沿革などについて詳しくお話しして下さいました。またお堂には［旅姿の］親鸞聖人の木像もあり、その足に触れると足が丈夫になるという伝説も紹介して下さいました。

素晴らしい日本料理の昼食時、レスリーと私は長谷川先生を朝から蓄積していた質問攻めにしました（彼にとってはお馴染みの行事となりました）。午後はバスで親鸞聖人のご誕生の地に建つ日野誕生院を訪ねました。同院は今年の慶讃法要に合わせ、最近改修されたそうです。この日最後に訪問したのは頂法寺（六角堂）でした。聖徳太子建立と伝えられ、浄土真宗の歴史において重要な意味を持つお寺です。ここに参籠した親鸞聖人が観音菩薩の夢告を受け、そのことが法然上人のもとへ向かい、弟子となったきっかけとなったのです。その夜、京都での少しの自由時間を楽しみ、皆一緒の最後の夕食をとりました。翌朝北陸旅行組は京都旅行組と別行動となるのです。

崇泰院にて

四月二十三日（日）

この日の朝、帰国する人達やそれぞれの旅路へ向かう人達と別れることになりました。

残った約二十五名の参加者はバスに乗り、日本海の海岸沿いの旅行に出発です。東尋坊での昼食の後、吉崎別院に到着しました。私達の到着したその日遅くに蓮如上人御影道中が到着するとこのことでした。京都から何百マイルもの距離を歩いて御影を運んでくるのです。残念ながら私達は御影道中の到着を目にすることはできませんでした。

金沢別院にて

その後、金沢市の金沢別院に着きました。そこで私達を待っていたのは木越樹元バークレー東本願寺開教使と娘さんでした。齢九十三にして英語を学ぶ楽しさについて英語でお話しになり、渡米当時最初に覚えた英語の歌を披露して下さいました。レスリーが一九五八年撮影の別院青少年グループの写真をお二人に見せました。若き日のご自身の姿に目を輝かせる先生を見ていると、私達も嬉しくなりました。先生は当時三十八歳の若者だったのです！

四月二十四日（月）

ご旧跡巡りはさらに続きます。この日は親不知を経て、居多ヶ浜を訪れました。京都から流罪になった親鸞聖人の上陸の地として知られています。そして聖人がお住まいになった竹之内草庵跡［五智国分寺］と竹ヶ前草庵跡［浄土真宗本願寺派国府別院］を訪れました。

バスで移動の間、長谷川先生や山田先生が旧跡にまつわる言い伝えや教えで私達を楽しませてくれました。

この日最後に訪れたのはゑしんの里記念館です。親鸞聖人の奥方である恵信尼公の人生を紹介する比較的新しい資料館です。恵信尼公にまつわる掛け軸などが展示され、聖人や真宗門徒へ与えた影響を窺い知ることができました。私達を案内してくれた僧侶の方は最近配属になったそうで、記念館の周知のため懸命に努力されていました。

ゑしんの里記念館にて

四月二十五日（火）

この日は宿泊した新潟市から郊外へバスで少し移動し、護念寺に到着しました。細川好円先生のご自坊です。皆様の多くにとっては三島先生と言った方がお馴染みかもしれません。米国やオーストラリア、ニュージーランドで開教使をされていた頃のご経験をお話になり、皆を楽しませて下さいました。本堂が改築途中なので、新品の瓦が堂内に積まれていました。先生は記念に皆それぞれ瓦にペンで一言書かせて下さいました。その後お茶菓子で接待して下さり、世界的に有名な関市の爪切りを記念品として贈呈いただきました。

護念寺にて

昼食後、長野県小布施町に立ち寄りました。栗や葛飾北斎で著名な、山間の小さな町です。現地のガイドさんに案内してもらいながら街中を少し歩きました。小布施町には「オープンガーデン」と称して個人宅や店舗の庭を一般に開放し、通り抜けることもできる独特のプログラムがあるそうです。また栗は六百年もの歴史を持つ当地の名物で、どの店でも栗をあしらったものが陳列されていました。そして北斎館を見学した後、栗ソフトクリームを楽しみました。この時点で皆、日本のソフトクリームがいかに美味しいか、よくわかっていたのです。葛飾北斎は「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」などの版画で有名な画家です。北斎館では北斎の人生や作品制作の背景だけではなく、有名な龍、鳳凰図が天井に描かれた東町祭屋台をも展示していました。小布施町での滞在は短いものでしたが、私達夫婦にとってとても深い感銘を受けた滞在でした。

その日の午後、長野市に到着し、夕食前の少しの時間買い物を楽しむことができました。

四月二十六日（水）

この日のほとんどの予定は移動ですが、朝早くに善光寺を訪れました。御旧跡巡りの締め括りとして素晴らしいお寺です。今回の旅行では主に親鸞聖人に関連する土地や真宗寺院を訪れましたが、善光寺は一般にもよく知られ、宗派を問わず参詣の人々で賑わうお寺です。現地のガイドさんは、善光寺にも少し親鸞聖人との関わりがあると説明してくれました。聖人がしばらく逗留していたとされるところが参道沿いの住宅として残っています。日本で三番目に大きな本堂を持つ善光寺は国宝に指定され、優れた仏教建築の昇華として知られています。その檜皮葺の屋根はそれまで見たこともないほど大きなものでした。また本尊は日本最古の仏像とされ、一般には公開されない秘仏です。複製の本尊が六年に一度、数週間のみ公開されるとのことでした。

旅行も終盤を迎え、東京行きの新幹線に乗るため駅に向かいました。新幹線は運行時刻の正確さで有名ですので、皆が時間通り乗り、目的地で降りるよう引率の先生方は確認されました。駅に停車している時間は数分だけだからです。日本に着いてから初めての雨天でしたので、浅草観光を省略して買い物を楽しみ、皆一緒の最後の食事前に一休みしました。

バスに乗り、何やら何の変哲もない倉庫街のような場所に到着しました。しかし、エレベータに乗り、降りた私達の眼前に広がったのは見渡す限りの東京湾の光景でした。夕食では皆、お別れの言葉を交換し、写真を撮り、旅の思い出話に花を咲かせました。

そして、私達は人と生まれた意味について何を学んだのでしょう？自宅に帰り、時差ぼけからも少し回復した今、参詣者が一体となってお勤めした正信偈と和讃の感動を思い起こしています。そして、旅行参加者の皆さんの優しさや、行く先々で出会い、慣れない外国を旅行する私達に親切に接して下さった名も知らぬ方々のことも思い出されます。そして、先生方には忍耐強く、かつ喜んで私達の質問に答えていただき、また旅先を案内いただき、深く感謝申し上げます。そして末筆ながら、家族のように親しくなった同行の皆さんとの旅を通して培った友情に心から感謝申し上げます。

別院活動報告

母の日法要

五月十三日（日）午前十時より母の日法要をお勤めしました。ヘザー・バーボッドさんより母の日にちなんだお話しをいただきました。ヘザーさん、お母様との思い出や母たることについて心温まるお話しをいただき、ありがとうございました。リサ・シマモトさんには花束をご用意いただき、壮年会からは苺饅頭を提供いただきました。ありがとうございました。また、ご参詣の皆様に御礼申し上げます。

行事のお知らせ

お盆の行事について

お盆祭り日程
日時　七月二十九日（土）午後十二時三十分から六時三十分まで
会場　村田農場（カマリロ市）

盂蘭盆会日程
日時　七月二十三日（日）午前十時から
会場　別院本堂

お盆祭りについて
入場料
大人三十ドル（食事付き）
子供十五ドル（十歳以下）（お子様向け食事付き）

お盆ティーシャツ販売
本年のティーシャツは大人用を前売りのみ（二十ドル）で販売します。お買い上げのシャツはお寺でお渡し致します。

万灯会提灯
本年は万灯会提灯の受付は致しません。会場で万灯会の名札のみ受付します。

お盆ラッフルチケット
本年からお盆ラッフルチケットの販売を再開致します。近日中にチケットを皆様に郵送致します。

盂蘭盆会について
昨年のお盆から一年間にお亡くなりになった方の法名を内陣に掲示して偲ぶとともに盂蘭盆会を厳修します。法要は対面及び同時配信にてお勤めします。

お盆祭りについて最新の情報をメールにて配信しております。メーリングリストに登録をご希望の方は info@hhbt-la.org にメールでご連絡下さい。また当別院フェイスブックにも最新の情報を掲載していますので、ご覧下さい。

お盆祭りを村田農場で！

開催日 二〇二三年七月二十九日（土）

本年の別院お盆祭りはカマリロ市の村田農場にて開催致します。盆踊りやお食事をご一緒に楽しみましょう。参加チケットは六月に販売開始致します。後日改めて皆様にご案内申し上げます。

祭

同朋のお悔み

リンチ ジョウジアン 良江 様
三月八日 御命終
行年七十六歳

新沢 三郎 様
三月二十八日 御命終
行年七十六歳

カマヘレ 江川 房子 様
四月五日 御命終
行年九十四歳

中山 正実 様
四月十七日 御命終
行年八十五歳

謹んで哀悼の意を表します。